

市民協働推進モデル事業相互評価表

| 事業名 | 事業内容 | | 実施団体名 | 一般社団法人ぐるーん | 事業総額 (決算額) | 967,946円 |
|-----|------------------------|------------------------------------|--|--|---------------|----------|
| | 里親委託を推進するための、里親制度の普及啓発 | | 担当課名 | こども総合相談所 | | |
| NO. | 評価項目 | | 自己採点 (各項目20点満点) | 評価の理由 | | |
| 1 | 目的・課題 目標設定 | 当初に設定した目標を達成することができましたか？ | 20 | 3回に及ぶ「里親講座と座談会」を実施したが、予想を上回る参加者があり、民間団体独自の切り口によって里親制度に対する興味関心を参加者に持ってもらうことができ啓発活動に貢献した。さらに、ワークショップでは延べ6回にわたり、施設児童と参加社会人の直接的な触れ合いを通して「里親」についての理解を具体的体験を通して深めることができた。 | | |
| 2 | 発展性 | さらなる発展や波及につながる成果を得られましたか？ | 20 | ワークショップでは施設児童一人一人に作業に同伴する大人が付き添ったことにより、また講師の創意工夫と熱意もあって、児童たちの目を見張る取組が実現した。これは、ワークショップのテーマの設定とその講師の人選に提案団体が全面的に協力したことにより、「協働」の大きな成果になった。そして、児童と大人が共に作業することにより、児童の方には安心感と理解され共感してもらえる喜びが生まれ、また大人たちは児童に伴走して見守り育てることを体験し、体験的に「里親」への理解を深めることになった。 | | |
| 3 | 実現性 | 連絡調整、経理、報告など事業に関する事務は適正に行われましたか？ | 20 | 9回にもわたる提案団体と担当課による打ち合わせ会が持たれたが、会は単なる事務的な連絡に終わるのではなく、本来持っている「日本社会における里親制度の普及」の前に立ちはだかる様々な困難課題に対して、こども相談所と民間団体が協力してどのようなことができるかが真摯に話し合われたことは、双方にとって意味深かった。 | | |
| 4 | 成果 | 利用者、参加者をはじめ、市民の満足度向上につながりましたか？ | 20 | 里親講座と座談会に参加した方々の感想や意見の中には前向きな貴重な意見も多く、質問には子ども相談所の職員の方が丁寧に対応していただき、満足度は大きかったようである。また、講演者の話も体験に基づく生身の話がちりばめられており、参加者は真剣に耳を傾けていた様子がうかがえた。そして、単なる民間団体が主催するのとは違って、公的機関であるこども相談所の共催であることにより、参加者に安心と公平感を与えることができた。 | | |
| 5 | 協働効果 | 相互が役割と責任を担い、協働による相乗効果を生むことができましたか？ | 20 | それぞれが別々に事業を展開するよりも、事業参加者数が増加するのはもちろんであるが、協働することにより、上記4項目で具体的に記述したように、事業内容の多様性、独自性が大きく進展した。また、提案団体と担当課の信頼関係が深まり、さらに社会的養護の必要な児童のために、国の指針にのっとりながら、具体的にどのような事業を展開していけばよいのかという方向性をともに感じ取ることができた。 | | |
| 6 | 総合評価(実施団体より) | | 里親講座と座談会を年3回実施したことで、里親制度について知る市民が増え、里親里子への理解が深まった。座談会では里親を実際に体験している人の話も伺え、里親への疑問の解決、不安の払拭に繋がった。さらに、里親登録や里親委託の増加に向けて、今後取り組まなければならない課題について考える機会にもなった。ワークショップでは普段では関わることのない施設入所児童と社会人の触れ合う場所と時間を提供でき、作品作りを共に行うこと、それも一人一人に大人がそばに付き添って共同作業をすることにより、「里親」についての体験的な理解を双方が深めることができた。また、里親よりもハードルの低い「一時里親」のリーフレットを作成したことにより、今後この制度を活用して里親制度の門をくぐる社会人の増加に貢献することができた。里親月間に市役所で行われるパネル展示に参加し、広報活動に一役買った。 | | | |
| | 総合評価(担当課より) | | 里親座談会やワークショップ等により、数多くの市民の方に里親制度の正しい認識を持っていただいたことは大きな成果である。座談会の開催場所が3か所とも異なる場所になったが、それぞれの場所で参加者数に偏りが出るなど、開催場所や広報に関する課題が見つかった。翻って考えると、今後の効果的な開催、広報について認識できることとなった。また、継続的なワークショップ開催により、施設入所児童の中に里親に対する関心・興味が生まれてきて自ら里親に行きたいと訴える児童が現れるなど、これまでにない効果が生まれてきていると感じられる。これは当初には考えられなかった副次的な効果で、今後はこういう場を利用し、一歩進んだ取り組みが行える可能性が感じられた。以上のとおり、これまで行政だけの取り組みではなかなか行えなかったことができ、さらに実施団体のノウハウによる独特な事業により、今後、さらに一歩進んだ事業展開を見込むことができるなど、非常に有益な事業であったと言える。 | | | |
| | 総合評価(ESD・市民協働推進センター) | | 実施団体、担当課の評価にあるとおり、それぞれの長所が生かされた協働効果の高い事業であったと思われます。特に「一次里親」という着眼点、独自性の高いワークショップの企画・運営、児童養護施設との信頼関係等は実施団体の経験と専門性に基づくものであり、岡山市における里親制度の普及・啓発施策に新しい示唆や気づきが生まれたことは間違いありません。また、数多くのミーティングを重ねたことで実施団体と担当課の相互理解が深まっており、普及・啓発以外の事業展開においても協働関係が継続される期待が持てます。一方で事業成果をどのように測定、可視化するかという点においては単年度の事業で明確な回答・結果を得ることができず、一般施策化に向けて越えなければならない課題となっています。平成29年度も協働事業を継続し、平成30年度の一般施策化を目指す場合は、普及・啓発事業による対象者の心理・行動の変化や里親登録に至った(または至らなかった)動機等を丁寧に測定して、事業の成果を広くアピールしていただきたいと思います。 | | | |